

## 平成 22 年度 全国学力・学習状況調査の調査結果の概要について

北広島市教育委員会

### 1. はじめに

この全国学力・学習状況調査は、文部科学省が全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上のため、教育の結果を検証し、改善を図ることを目的として、全国の小学 6 年生と中学 3 年生を対象に、平成 22 年 4 月 20 日に国語と算数・数学の 2 教科の学力と学習習慣、生活状況などについて実施したものです。今年度からは、悉皆調査（すべての学校での調査）から抽出調査に変更になりましたが、本市では、この調査を子どもたちの学習状況を把握する重要な資料の一つとしてとらえ、全校で調査に参加しました。

本市では、文部科学省が示している目的にもあるとおり、この調査は、子どもたちの学習状況を把握する重要な資料の一つであり、結果については、他との比較ではなく、子ども一人ひとりの個性や能力に応じた学習指導の改善に役立てるものと捉えています。

そこで、学力調査の結果の公表にあたりましては、序列化や過度の競争につながりかねない学力の数値公表や他市との順序付け比較などは、本来の「全国学力・学習状況調査」の目的から外れ、一面的な解釈がなされるおそれもあることから、本市としての課題が明らかになるように、文言により具体的な傾向を示すこととしました。

一方、学習状況調査の結果につきましては、過去 4 年間の調査結果からも、子どもたちの学力と学習習慣、生活習慣、読書習慣等には、きわめて深い相関関係があることも明確になっていることから、学校・家庭・地域の連携・協働の下で学力向上につながる子どもたちの学習をとりまく生活の状況等についての結果を具体的に示しました。

この概要報告が、保護者や地域住民の皆様に、域内の教育及び当該学校の状況について、学校が果たすべき役割、家庭や地域が果たすべき役割、そして相互の協働によって果たすべき役割を精査し、それらの役割分担の更なる発展を促し、地域の子どもの成長に資するものとなるよう願っています。

また、この概要報告は、域内の教育及び当該学校に対する本市の「学校教育改善プラン」としての側面を有しており、各校へ配布するとともに、各校でも北広島市教育委員会の理念と方向性をそろえ、自校の全国学力・学習状況調査結果を分析・検討をし、各校の改善プランを作成し、指導の改善に向けての取り組みを発信し、家庭・地域の信頼に応えるよう、連携と協働を推進していきます。

### 2. 調査の概要

#### (1) 調査の対象学年・人数

- ・小学校 6 年生（北広島市 10 校 603 名）
- ・中学校 3 年生（北広島市 7 校 566 名）

## (2) 調査の内容

### ①教科に関する調査（国語、算数・数学）

<p style="text-align: center;"><b>主として「知識」に関する問題 A</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容（基礎的・基本的な内容）</li> <li>・実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっている事が望ましい知識・技能</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>主として「活用」に関する問題 B</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力などに関わる内容</li> <li>・様々な課題解決のための構想を立て、実践し評価…改善する力などに関わる内容</li> </ul>
---	---

### ②生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

<p style="text-align: center;"><b>児童・生徒に対する調査</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面に関する調査</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>学校に対する調査</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導方法に関する取り組みや人的・物的教育条件の整備状況に関する調査</li> </ul>
--	---

(3) 調査期日 平成 22 年 4 月 20 日（火）

(4) 合算データ受領日 平成 22 年 11 月 5 日（金）

## 3. 学力状況調査結果の概要

学力状況調査結果の概要は、具体的設問の中で相当数の児童生徒ができています点、課題のある点など、特徴的だったものを累計的に分析し、記載しています。

### (1) 小学校

	国 語	算 数
<b>A問題</b> (主として「知識」)	児童が今回出題されている学習内容をほぼ理解していると考えられます。	児童が今回出題されている学習内容をほぼ理解していると考えられます。
<b>B問題</b> (主として「活用」)	身につけた基礎的・基本的な知識や技能を活用する力をいっそう高めていく必要があると考えられます。	身につけた基礎的・基本的な知識や技能を活用する力をいっそう高めていく必要があると考えられます。

なお、学力調査の問題や解答については、次の URL に掲載されています。

国立教育政策研究所 教育課程研究センター「全国学力・学習状況調査」

<http://www.nier.go.jp/kaihatsu/zenkokugakuryoku.html>

(◇… 相当数の児童生徒ができています点 ◆… 課題のある点 問題番号の「A」はA問題、「B」はB問題を示す)

小学校 (1)	国 語	問題 番号	算 数	問題 番号
領域別分析	「話すこと・聞くこと」		「数と計算」	
	◇聞き手が理解しやすいように、話の全体の構成を工夫することはできています。 ◆話の中心や話し手の意図をとらえながら聞き、適切に質問することに課題があります。	A⑥ B③ 三	◇整数、小数、分数の四則計算はできています。 ◆商が1より小さくなる等分除の場面で除法が用いられることや数量を等分したときの1つ分を分数で表すことへの理解には課題があります。 ◆示された式を解釈し、条件に合うように問題を修正することに課題があります。	A① (1)~ (5) A② (1) (2) B① (1)
領域別分析	「書くこと」		「量と測定」	
	◇読み手が評価した内容を整理することはできています。 ◆文と文との意味のつながりを理解し、文の論理を考えて書くことに課題があります。	B① アイ A④	◇示された角の大きさを求めることはできています。 ◆平行四辺形に対してなされた説明を解釈し、それを台形に適用して筋道を立てて説明を記述することには課題があります。 ◆円を分割し並べ替えて作った長方形の横の長さが、円周の半分と等しいことへの理解には課題があります。	A⑤ (1) B④ A④ (2)
領域別分析	「読むこと」		「図形」	
	◇説明的な文章の内容を押さえながら読むことはできています。 ◆文学的な文章に登場する人物を相互に関係付けて読むことに課題があります。 ◆目的や意図に応じて、必要な情報を関係付けて読み、理由を明確にして説明することに課題があります。	A② A③ A④	◇立方体を展開図から構成することはできています。 ◆平面上にかかれた立体図形や平面図形を基に長方形の大きさを考え、記述することには課題があります。 ◆日常事象から見いだした図形の名称を、図形の定義を基に判断し、その理由を選択することには課題があります。	A⑥ B② (1) B⑥ (1)
領域別分析	「言語事項」		「数量関係」	
	◇今回出題した漢字の読みと書きはできています。	A① 一二	◇円グラフから必要な情報を読み取ることにはできています。	B③ (1)

(◇… 相当数の児童生徒ができています点 ◆… 課題のある点 問題番号の「A」はA問題、「B」はB問題を示す)

(◇… 相当数の児童生徒ができています点 ◆… 課題のある点 問題番号の「A」はA問題、「B」はB問題を示す)

小学校 (2)	国 語	問題 番号	算 数	問題 番号
領域別分析	「言語事項」		「数量関係」	
	◇語句の構成や語形の変化を理解することはできています。	A9 アイ	◆計算の順序についてのきまりを理解し、加法と乗法の混合した整数の計算をすること、( )を用いて式を書くことには課題があります。 ◆百分率を求めること、割合が一定の場面で比較量が最も大きくなるときの基準量を判断し、その理由を記述することに課題があります。 ◆二次元表に示された数の意味を考え、二次元表と円グラフを関連付けることには課題があります。	A1 (6) B1 (2) A9 (1) B5 (2) B3 (3)
成果と課題	<p><b>更なる「習得」と「活用」のバランスを重視した教科教育指導を</b></p> <p>基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得の面では、全国と同等の力を発揮できるのですが、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむ面では、課題があります。こうした「習得」と「活用」のバランスを繋ぐ基盤となるのは言語に関する能力（言語活動※(7ページ参照)）なのです。</p> <p>言語活動の充実の中核となる教科・国語科の指導では、学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、校区の中学校や家庭との連携を図りながら、学習習慣を確立していくことが求められています。</p> <p>算数においては、個々の計算方法は「習得」しているのですが、文章題の文脈から、状況を整理し、「習得」した基礎・基本を「活用」し、日常的な事象を筋道をたてて算数的に表現する力の育成に努めなければなりません。そのためには、三角形、平行四辺形、ひし形及び台形の面積の求め方を、具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明するといった「算数的活動」（算数における言語活動）を更に充実するなど、新たな視点からの学習活動の確立に努める必要があります。</p>			

(◇… 相当数の児童生徒ができています点 ◆… 課題のある点 問題番号の「A」はA問題、「B」はB問題を示す)

(2) 中学校

	国 語	数 学
A問題 (主として「知識」)	生徒が今回出題されている学習内容をほぼ理解していると考えられます。	生徒が今回出題されている学習内容をほぼ理解していると考えられます。
B問題 (主として「活用」)	身につけた基礎的・基本的な知識や技能を活用する力をいっそう高めていく必要があると考えられます。	身につけた基礎的・基本的な知識や技能を活用する力は、ほぼ定着していると考えられます。

(◇… 相当数の児童生徒ができています点 ◆… 課題のある点 問題番号の「A」はA問題、「B」はB問題を示す)

中学校 (1)	国 語	問題 番号	数 学	問題 番号
領域別分析	「話すこと・聞くこと」 ◇目的に沿った話し合いになるように適切に質問すること、話し合いを効果的に展開させる発言の役割を理解することはできています。 ◆表現の仕方に注意して話し方の工夫をとらえることには課題があります。 ◆資料の提示の仕方を工夫し、その方法を説明することには課題があります。	A7 一二 A3 一 B2 三	「数と式」	
			◇実生活の場面に結び付いた正の数と負の数の意味は理解しています。	A1 (3)
			◆一元一次方程式の解の意味の理解については課題があります。 ◆予想された事柄を振り返って考えた り、予想された事柄が一般的に成り立つ理由を説明したりすることには課題 があります。	A3 (1) B2 (1) (2)
領域別分析	「書くこと」 ◇文章から必要な情報を集め、資料に表れている工夫を自分の表現に役立てて書くことはできています。 ◆与えられた条件に応じ、言語に関する知識などを適切に用いて分かりやすい文章に書き直すことには課題があります。 ◆書かれている内容を基に、自分の考えを書くことには課題があります。	B2 二 A4 二 A9 二 B1 三	「図形」	
			◇垂線の作図の手順については理解しています。	A4 (2)
			◆空間図形における長さの関係を見取 図からよみとることには課題がありま す。 ◆事象を数学的に解釈し、数学的な表 現を用いて説明することには課題があ ります。	A5 (3) B5 (2)
領域別分析	「読むこと」		「数量関係」	

	<p>◇述べられている内容とその根拠との関係について考えること、文学的な文章の内容を展開に即してとらえることはできています。</p> <p>◆論理の展開の仕方をとらえて、内容を理解することには課題があります。</p> <p>◆記事文における表現の仕方をとらえること、文学的な文章における比喻の内容を考えることには課題があります。</p>	<p>A2 A5 一</p> <p>A8 一</p> <p>B1 二</p> <p>B3 二</p>	<p>◇比例の関係を表す表の特徴をとらえることはできています。</p> <p>◆与えられた事象の中にある2つの数量の関係が一次関数であることの判断には課題があります。</p> <p>◆問題解決のための構想を立て実践し、その結果を数学的に表現することには課題があります。</p> <p>◆事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することには課題があります。</p>	<p>A9 (1)</p> <p>A12</p> <p>B1 (3)</p> <p>B3 (2)</p>
<p>領域別分析</p>	<p>「言語事項」</p> <p>◇文脈に即して漢字を正しく読むこと、漢字の成り立ちについて理解することはできています。</p> <p>◆語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うことには課題があります。</p>	<p>A10 二五</p> <p>A10 三</p>		
<p>成果と課題</p>	<p><b>更なる「習得」と「活用」のバランスを重視した教科教育指導を</b></p> <p>基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得の面では、全国と同等の力を発揮できるのですが、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力その他の能力をはぐくむ面では、特に国語で課題が残っています。こうした「習得」と「活用」のバランスを繋ぐ基盤となるのは言語に関する能力（言語活動※（7ページ参照））なのです。</p> <p>言語活動の充実の中核となる教科・国語科の指導では、学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養うとともに、校区の小学校や家庭との連携を図りながら、学習習慣や読書習慣を確立していくことが求められています。</p> <p>数学では「習得」と「活用」の両面で、十分な理解の水準に達しています。これは、日常的な事象を筋道をたてて数学的に表現する力を育成するために、指導に具体物を用いたり、言葉、数、式、図を用いたりして考え、説明するといった「数学的活動」（数学における言語活動）を充実するなど、新たな視点からの学習活動の確立に努めた成果が実ったことによります。今後もこの取り組みを中核に据え、教育課程や指導法の改善に努める必要があります。</p>			

(◇… 相当数の児童生徒ができている点 ◆… 課題のある点 問題番号の「A」はA問題、「B」はB問題を示す)

※注「言語活動※」

音声や文字を使って表現し、またそれを受け止めて理解する行動一般、基本的には「話す」「聞く」「書く」「読む」の4つの活動を指し、「言葉の力を育てる活動」です。

#### 4. 学習状況調査結果の概要

学習状況調査結果の概要は、学力との関連性の高い項目などを中心に、特徴的なものを選択して記載し、課題を焦点化しています。

##### (1) 小学校

(◇… 相当数の児童生徒ができています点 ◆… 課題のある点)

質問項目	北広島市の状況と課題
◇「算数の勉強は好きですか」 ◇「算数の授業で問題の解き方や考え方が分かるようノートに書いている」 ◇「読書が好きな児童」 ◇「携帯電話で通話やメールをしている児童」 ◇「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」 ◇「学級のきまりなどを友達同士で話し合っていて決めていると思う」 ◇「朝食を毎日食べる児童」	⇒全国同様、前向きな評価をする児童が60%を超えています。 ⇒全国平均値とほぼ一致しており、児童は意識してノート整理に努めています。 ⇒全国同様、約70%の児童が読書を好んでいます。 ⇒全国よりも若干少な目ですが、市内の約20%の児童が携帯を使っています。 ⇒全国同様、約60%の児童が計画的に学習をすすめています。 ⇒話し合いの重要性などについての認識は、全国平均値を上回っています。 ⇒全国同様で毎日95%以上の児童が朝食を食べています。
◆「国語の勉強は好きですか」 ◆「国語の授業で自分の考えを書く時、考えの理由が分かるように気をつけて書いている」 ◆「授業でノートを丁寧に書いている」 ◆「1日当たり1時間以上勉強する」 ◆「家で学校の宿題をする」 ◆「1日に10分以上読書をする」 ◆「携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っている」 ◆「家の人と学校での出来事について話をする」	⇒算数よりも積極的な評価をする児童が減る傾向にあります。国語が好きという児童は60%を切っています。 ⇒この項目も同様で、全国と比べてもやや減る傾向にあります。国語の学習においては、あまり考えずにノートに書き留める傾向があります。 ⇒ノートの活用の重要性について児童は意識はしているものの、全国平均値よりもやや下回っています。 ⇒全国の児童の約60%が1時間以上勉強しているのに対し、市内では約46%の児童しか1時間以上の家庭学習をしていません。 ⇒全国の児童の85%が必ず宿題をしているのに対して、市内の児童は70%ほどにとどまっています。 ⇒読書する児童は増えてきていますが、全国平均値に比べるとやや下回り、60%ほどです。 ⇒全国平均値とほぼ同様で、約70%の児童が、家の人と約束したことを守っていないか、約束そのものがない状況にあります。 ⇒全国の児童では74.4%ですが、市内では68.4%となり、約30%の児童が学校の話をしていません。

## (2) 中学校

(◇… 相当数の児童生徒ができている点 ◆… 課題のある点)

質問項目	北広島市の状況と課題
◇「国語の勉強は好きですか」	⇒全国的にも国語が好きという生徒は50%ほどで、全国平均値とほぼ一致しています。
◇「数学の勉強は好きですか」	⇒全国平均値とほぼ一致しており、前向きな評価をする生徒は50%を超えています。
◇「数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようノートに書いている」	⇒全国平均値をやや下回るが、74.4%の生徒が意識してノート整理に努めています。
◇「授業でノートを丁寧に書いている」	⇒ノートの活用の重要性については、全国同様90%近くの生徒が意識しています。
◇「読書が好きな生徒」	⇒全国平均値(68.8%)を大きく上回り、80.1%の生徒が読書を好んでいます。
◇「1日に10分以上読書をする」	⇒10分以上読書する生徒は、全国平均値で約50%ですが、それを5ポイントほど上回っています。
◇「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」	⇒全国同様、約40%の生徒が自分で計画的に学習をすすめています。
◇「学級のきまりなどを友達同士で話し合っていると思う」	⇒話し合いの重要性などについての認識は、全国平均値とほぼ同じで70%を超えています。
◇「朝食を毎日食べる生徒」	⇒全国同様で94%近い生徒が朝食を食べています。
◆「国語の授業で自分の考えを書く時、考えの理由が分かるように気をつけて書いている」	⇒小学校と同様で、この項目では、全国よりもやや減る傾向にあります。全国が約60%であるのに対し、50%にとどまっています。
◆「1日当たり1時間以上勉強する」	⇒全国の生徒の65.9%が1時間以上勉強しているのに対し、市内では57.9%にとどまっています。
◆「家で学校の宿題をする」	⇒全国と同様で、市内の生徒の約60%が必ず宿題をしています。残り40%は「必ず」ではありません。
◆「携帯電話で通話やメールをしている生徒」	⇒全国とほぼ同様で約50%の生徒が携帯を使っています。「ほぼ毎日している」生徒の割合は増加傾向にあります。
◆「携帯電話の使い方について、家の人と約束したことを守っている」	⇒全国平均値と同様で、約40%の生徒が、家の人と約束したことを守って活用していますが、約束のない家庭も多い状況にあります。
◆「家の人と学校での出来事について話をする」	⇒64.2%と全国平均値の63.7%とほぼ同様ですが、小学校に比べると10%ほど数値は下回っています。

(◇… 相当数の児童生徒ができている点 ◆… 課題のある点)

## 5. 学力と学習状況の相関関係について

### (1) 4年間の調査で明確になってきたこと

昨年度の調査同様、学力と学習状況には、確実な相関関係が明らかになりました。

- ・「毎日、朝食を食べている」、「毎日、同じ時刻に起床、就寝する」と回答している児童生徒は平均正答率も高い傾向にあります。
- ・「国語、算数・数学が好き」「学習したことが将来役立つ」「学校に持っていく物を前日か、その日の朝に確かめている」「家で学校の授業の復習をしている」「読書が好き」と回答している児童生徒は平均正答率も高い傾向にあります。
- ・「物事をやり遂げた喜びを実感したことがある」「人の気持ちが分かる人間になりたい」「学校の規則を守っている」など、心の豊かさが見られる児童生徒は平均正答率も高い傾向にあります。

この傾向は、4年間の学力・学習状況調査結果分析の中で、いつも明確な相関関係が示されています。

### (2) 子どもたちに学校・家庭・地域の連携で「良き学習・生活習慣」を育むこと

子どもの生きる力や確かな学力は、学校の教科指導のみによって育まれるものではありません。子どもを取り巻く学校、家庭、地域が、未来の日本を担う子どもたちを育むという視点から、有機的、一体的に子どもの学習と生活に関わることが必要です。今回の調査結果を踏まえると、北広島市の学校・家庭・地域においては、次の三つの課題解決が求められていることができます。

#### (解決すべき課題①)

北広島市の児童生徒においては、基礎・基本の定着とともに、思考力・判断力・表現力等を問う読解力や記述式問題、知識・技能を活用する問題を解く力を育成することが求められていること

#### (解決すべき課題②)

北広島市の児童生徒においては、読解力の差で成績分布の分散が拡大してきており、その背景にある家庭での学習時間などの学習意欲、学習習慣・生活習慣を改善させることが喫緊の課題であること

#### (解決すべき課題③)

北広島市の児童生徒においては、自分への自信を回復し、自らの将来への展望を明確にさせるとともに、体力の低下を克服させることが差し迫った課題であり、夢や志を育む教育の推進が求められていること

これらの課題を解決するには、知育、徳育や体育の充実のほか、国語をはじめとする言語に関する能力(言語活動<sup>※7ページ注参照</sup>)を育んだり、体験活動の充実により、他者、社会、自然・環境とかかわる中で、子どもたちに自分への自信をもたせることが大きな鍵となります。そしてその鍵の核心となるものが、より「良き生活習慣」の定着なのです。「意識が変われば行動が変わる。行動が変われば習慣が変わる。習慣が変われば人格が変わる。人格が変われば運命が変わる。」という言葉があります。「悪しき生活習慣」を改め、「良き生活習慣」の確立に、子ども自身が挑戦できるように、学校・家庭・地域が一体となって取り組む必要があります。

## 6. 児童生徒質問紙の集計結果から見えてきた課題

北広島市では、「心豊かに 大志をいだき たくましく生きるこども」の育成を目指し、学校教育実践課題を、心が動く感動体験と地域と動く地域連携を重視した「環境、福祉、人権、平和教育の推進」と定め、「優しく 賢く たくましい 子ども」の育成を核とした教育施策を推進してきました。

今回の調査結果を分析すると、各学校の主体的、積極的な取り組みの中で、この学校教育実践課題が成果を生みつつあるとともに、更に推進していくことの重要性が明確になってきました。そのためには、

北広島の子どもたちにより良き生活習慣、学習習慣を確立する「家庭学習ノート」「家庭連絡ノート」などによるきめ

※脱TV、脱ゲーム、脱携帯、脱ネット、家庭学習増の必要性	小 学 校			中 学 校		
	市内	全道	全国	市内	全道	全国
テレビ視聴（2時間以上）	71.1%	71.3%	67.6%	59.8%	68.0%	63.6%
ゲーム（1時間以上）	56.9%	58.1%	47.9%	45.3%	50.7%	41.3%
インターネット（1時間以上）	19.5%	22.7%	18.1%	42.5%	43.6%	35.1%
メール（毎日かかず）	10.1%	8.5%	9.5%	31.6%	29.9%	30.3%
平日の家庭学習（1時間以下）	55.0%	58.6%	41.8%	42.2%	42.5%	33.8%

細かな子どもの生活サポートが鍵となることも明確になってきたのです。

### （学校・家庭・地域が留意すべき5つの視点）

- (1) 学校は教科指導を通して、もっと国語や算数・数学の魅力を伝える努力をしよう
- (2) 学校はもっとノートの使い方を教えよう（電子黒板の有機的な活用なども工夫しながら、丁寧に構造化された板書、ノート指導の充実・徹底を）
- (3) 学校・家庭の連携の中で、もっと家庭学習を定着・充実させていこう
- (4) 学校・家庭・地域の連携で、もっと読書に向かわせよう
- (5) 学校・家庭・地域の連携で、もっと※脱テレビ、脱ゲーム、脱携帯（メール）の生活習慣改善を（ゲーム、インターネット、テレビ等にさく時間を全国平均以下に。家庭学習時間を全国以上の水準に。）

## 7. 教育委員会及び各小中学校の取り組みについて

### (1) 教育委員会

- ・1月下旬までに、この「調査結果の概要」をWEB上に公開します。
- ・1月下旬までに、北広島市の詳細な調査結果を各学校に提示するとともに、北広島市学校教育改善プランを「学校・家庭・地域への「五つの提言」」として提示し、平成23年度学校教育推進計画や各学校の次年度経営計画に反映させます。

### (2) 各学校

- ・児童生徒に「個人票」を配布し、「個人票」の結果を活用して指導・助言に努めます。
- ・市教育委員会の分析手法なども参考にしながら、各学校で調査結果を検討して「調査結果の概要」を作成するとともに、分析、考察、改善策を該当学年保護者に公開します。
- ・校内組織を活用して、学校改善プランを策定し、自校の教育課程や指導方法の改善に活かしていきます。「児童生徒に対する質問調査結果」を分析し、自校の傾向を把握し、児童生徒の指導に活かしていきます。